

尖石縄文文化賞

西田巖さん

佐賀市
職員

東名貝塚の発掘、研究



西田巖さん

縄文時代の優れた研究や活動をたたえる第26回宮坂英弼記念尖石縄文文化賞に、佐賀県佐賀市地域振興部文化財課主幹の西田巖さん(58)が選ばれた。同県東名貝塚の発掘、研究に取り組み、縄文文化の生活実態の解明に大きく貢献し、保存と活用にも積極的と

して、選考委員会の会田進委員長が24日、今井敦市長に答申した。

東名貝塚はドングリが入ったかごなど、生活道具や食べ物が多く出土したことからは「縄文のタイムカプセル」とも呼ばれる。自然科学の研究

ムを組織して地道な調査と研究に取り組ん西田さんらについて、選考委は「縄文文化に対する歴史認識を大きく塗り替える成果を上げた」と賞賛。国史跡指定も実現し、遺跡の保存と活用に積極的に進めていることも評価した。

西田さんは取材に、「重要な遺跡に失礼にならないよう、アピールを一生懸命やった」とこれまでの活動を振り返り、「ガイダンス施設の建設工事が10月から始まり、2028年に完成予定なので、全国に東名貝塚の素晴らしさを知ってほしい」と話した。

答申で会田委員長は、「かご作りの技術の復元までの努力がすごい」と西田さんらの業績を紹介し、西田さんら

の研究で、かご編みの高い技術が縄文時代の早期からあったことが分かったことを説明した。今井市長は「素晴らし

い方を選んでいただいた」と感謝した。授与式は11月3日に尖石縄文考古館で開く。

(前田智威)